

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101002		
法人名	社会福祉法人 東北福祉会		
事業所名	せんだんの里グループホーム(東乃家)		
所在地	仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム東乃家の理念『のんびり楽しく 笑顔あふれる 明るい家族 みんなでつくる地域の輪』を實踐し入居者一人一人に合わせた生活支援をおこない安らぎと安心のある暮らしが出来る様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国見ヶ丘団地内の一画の広大な敷地に、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス等とともに3棟のグループホームはある。社福)東北福祉会が運営し、「せんだんの里」として事業所間のコミュニティが形成されている。ボランティアの来訪も多く、利用者は他事業所に参加も可能で、他事業所の顔なじみの職員や知人との交流の機会も多い。ひとつのユニットが一軒の家で、各々独自の理念を掲げ、多くの職員(半数以上)が介護福祉士の資格をもち、生き生きと働いている。職員の資質向上のための研修も充実しており、専門性を高めるために介護福祉士取得を積極的に支援している。室内の大きな窓から桜が一幅の絵のように眺められる。現在、ユニットの定員8人から9人にするため増床の工事をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 **せんだんの里GH**）「ユニット名 **東乃家**」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	せんだんの里の「地域密着」の理念のもと、グループホームの理念をあげ、管理者・職員全員で共有し理念の実践に取り組んでいる。	法人の理念をもとにユニット毎に独自の理念を掲げている。職員は利用者の声を聴くように努め、生活スタイル、本人らしさを大切に日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との日常的な関わりは少ないが美容院の方との顔馴染みの関係が出来たり行事を等して地域の方との繋がりは出来つつある。ボランティアグループの「食事会」等にも参加し交流を深めている。	町内会には加入していないが、広大な法人施設敷地内でコミュニティが形成されている。演芸や紙芝居・傾聴の会など多種多様なボランティアの来訪がある。地域の防災訓練に参加をし、地域住民に向けて介護教室を開催して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けて介護料理教室やサロンを開催し介護や認知症についての支援方法等の情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催しグループホームの運営状態を理解して頂き、意見を伺うことでサービスの向上に活かしている。	民生委員、地区社協、地域包括職員、家族、職員の参加で2ヶ月に1回開催、外部評価の報告もされている。昨年の評価の課題の段差解消は現在行われている増床のための工事で検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価結果の改善計画書の提出等、必要に応じて担当者話し合いの場を設けるようにしている。	必要な報告をし、1部屋増床の件については、計画時から相談をしてすすめている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束しないケアに取り組んでいるが、やむを得ず身体拘束が必要な方に対しては、拘束の状況を毎日記録し拘束をしないケア委員会で身体拘束の必要性を話し合っている。	身体拘束についての委員会があり、毎月1回事例検討を含む研修を実施している。傷があるのに搔いてしまうためミトンが必要になった時には、理由を家族に説明するとともに毎日の状況を記録に残した。外出傾向を把握し、職員が遠くから見守って敷地内を散歩している。夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修に参加し理解を深めたり、定期的に自己点検を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し制度の理解に努めている。必要時には、関係機関と連携を図り対応が可能である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には介護職員の他に総務課担当者と共に家族の意見を傾聴し理解、納得を頂けるように説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わり、来訪時の関わりの中で入居者・家族の意見に傾聴している。また、申し送りや記録を共有し会議で話し合い運営に反映させている。いつでも意見を頂ける様、玄関に意見用紙を設置している。	行事があるときに、家族との食事会を設け、その後に懇談会を開催している。家族からマッサージや口腔ケア等の個別の要望があり対応している。家族あてのお便りは、利用者一人ひとりの写真や手書きのコメントなど各ユニットで工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、運営会議にて職員の意見、提案等を出している。	職員シフトは原則均等にしているが、研修や体調等を考慮して、職員希望も取り入れてシフトを作成している。食事メニュー作りの作業の合理化なども検討をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、昇給に関してはキャリアパスを導入し自己評価の提出等により個々の努力、実績、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた内部、外部への研修の参加を促している。働きながら資格取得等のサポート(勤務調整)を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム協議会に加入し職員研修会、講演会に参加し他事業所の方と意見交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に実調をおこないご本人からも十分に話を聞く機会を設けている。また、それらをケアプランに反映させ、入居後もその時々ニーズに合わせて支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に実調を行ない家族からも十分に話を聞く機会を設け、それらをケアプランに反映させている。また、常に話しやすい雰囲気作りを行ない信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の意見を大切にし、その時のニーズに対して柔軟に対応できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的に何かを決定することなく共に考え相談しながら生活を共にしている。ご本人の意見表示が困難な時は家族に働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人の様子を伝え情報を共有している。家族参加型の行事を企画し共にケアし支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り今までの過ごしてきた場所(自宅や馴染みの場所)に行く機会を作ったり知り合いの方に会ったりするように努めている。	在宅時より参加している踊りのサークルへ通っている人もいる。家族の協力のもと、以前から通っている美容院へ行くこともできている。法人敷地内の他事業所の利用者や職員との交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人同士で会話をしたり何かをする事が困難な場合は必要に応じて職員が間に入る事で入居者間の関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に訪問や相談して頂けるように声を掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、ご本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め記録し情報を共有している。また、毎月カンファレンスを行ない生活の質の向上に努めている。	利用者本人のこばを大切にケアに活かすよう努めている。意向の把握が困難な人は、生活歴を参考にしている。これらの情報は申し送りノートやケアカンファレンス等で職員間の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などをご本人、家族に聞き把握し情報の共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の申し送り、記録、連絡ノートを活用し一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、各関係機関と連携し話し合いながら3ヶ月ごとに介護計画を作成している。緊急の問題、状態の変化が生じた場合は、その都度、関係者が集まり検討して介護計画を作成している。	介護計画作成にあたり、利用者・家族の意向を確認しており、短期・長期の目標がたてられ、記録されている。食事や介護などについての医師の意見を反映し、職員はカンファレンスで検討している。家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活を個別に記録紙職員間で情報を共有しながら実践している。毎月、カンファレンスをおこない介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況、要望に応じて柔軟に対応し支援して行くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体が主催する会に参加し地域の方々と情報交換したり交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりがその時々々の体調に応じた適切な医療を受けられるように家族と相談しながら、かかりつけ医の受診支援をしている。	入居前のかかりつけ医への受診を継続できる。通院は家族対応で外出の機会となっている。月2回の訪問診療を受けている人もいる。紹介状を出してもらって専門医へつなげる場合もある。職員が付き添った場合は家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護師と連携を図り、週1回の看護師訪問日に入居者の状態を把握して頂いている。また、状態の変化にも連携して対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は「サマリー」等で情報を医療機関に提供している。また、入院中は面会し状態の把握に努め退院後も安心して生活出来る様に支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに関しては家族の意向をケアプラン等において確認している。本人、家族の意向に沿って医療機関を含め方針を共有している。	入居時に看取りの指針についての同意を得ている。重度化や終末期の対応についても丁寧な話し合いが行われている。看取りの際、家族の宿泊部屋があるが、ほとんどが利用者の個室で過ごすことが多い。すべてのユニットで看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時などの緊急対応はマニュアルに沿って対応出来る様に定期的な振り返りを行っている。救急救命訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に1回、火災訓練は毎月実施している。また、地域の防災会議に参加したり、地域の防災訓練に参加し地域と協力体制を築ける様に取り組んでいる。	グループホームの各ユニットが毎月順番で火災訓練を行っている。防災訓練は法人全体で行われ、非常時用の備蓄は6日分用意されており、毎月確認している。備蓄による非常食メニューができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねないような対応に努めている。	呼び名は入居の際のフェイスシート作成時に確認し、職員間で共有している。職員研修では接遇について学び、苦情時の対応にも取り組んでいる。排泄介助は周りの人に気づかれないように部屋やトイレに誘導しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行によりその時々希望が上手に表出できないこともある為、本人の希望や思いを傾聴し自己決定や希望が表出できるよう支援します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの暮らしのペースを大切に一人ひとりに合わせたケアをさせて頂いている。充実した暮らしが出来る様に支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回程度は理容、美容院に来て頂き、その人らしい身だしなみが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことが出来る様に会話を交え自身の茶碗やお箸を使って食事をしている。また、盛り付けや、後片付けを一緒に行い、一人ひとりの力を活かした支援を行っている。	献立は各ユニットごとに異なり、季節感のある食材を使用して利用者の好みや希望を聞きながら、職員が1週間交代で作成している。利用者も調理や片付けなどを一緒に行っている。法人の栄養士が食事の写真を見ながらチェックし、体重チェックも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを十分に考えた献立を作成している。水分摂取量はチェック表を活用し十分な水分が摂れるように支援している。また、ゼリーを提供し水分を摂って頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に合わせ、口腔ケアを行ない残渣を取り除くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知る為、時間と排泄状況を記録し一人ひとりに合わせた排泄支援を行なっている。	個別排泄チェック表があるが、一人ひとりのサインをつかんでトイレに誘導するようにしている。自然な排便のためには十分な水分摂取とともに運動にも気を付けている。乳製品を食事に取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れた献立、十分な水分の提供、一人ひとりに合わせた運動を行ない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴実施表を活用し一人ひとりに合わせた入浴支援に努めている。	週2回が原則だが、希望にそった入浴も可能、ゆず湯や入浴剤も利用している。個別のお湯換えはしていないが、上がり湯で対応している。車いすの方には本人の状態に合わせた介助方法でホーム内の個浴や、同法人施設の入浴設備を利用し支援している。拒否が強い方には声がけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活で一人ひとりの生活リズム、身体状況、体調に合わせた休息支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品管理ファイルを活用し一人ひとりの服薬状況を把握、共有している。また、医療機関と連携し服薬支援と症状の変化確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る力を活かし食器拭き、洗濯物たたみ、盛り付け等をして頂いている。また、一人一人に合わせた楽しみを取り入れ気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者に合わせた外出、買い物、周辺の散歩等に出掛けている。また、家族と協力して散歩や外出の機会を設けている。	ゴミ捨てや散歩など外に出るときには、目的をもって出かけるようにしている。七夕は近くの中山商店街に出かける。墓参りは家族の協力を得ながら行っている。地域のイベントやユニット合同のイベント、法人内のおやつづくりやクイズ大会などを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて金銭の所持、買物の支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等と電話や手紙のやり取りができる様に支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花、装飾で季節感のある環境作りを行なっている。また、色合いや馴染みの家具などを取り入れ居心地良く過ごして頂けるように支援している。	リビングルームの窓からは、桜並木が良く見え、室内にいながら季節を感じられる。温・湿度は当日のスタッフが管理している。室内は大小様々な観葉植物が配置されて緑が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に食堂、ソファースペースをつくり、一人一人に合せた過ごし方が出来る様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族と相談しながら馴染みの物や使い慣れたものを使用し居心地良く過ごして頂けるように工夫している。	洗面台、押し入れ、エアコンが設置されており、テレビや使い慣れた家具等を持ち込んで落ち着いて過ごせる部屋になっている。居室から外に出られるような大きなガラス戸になっているため、開放感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせて安全に過ごして頂ける様動線に配慮した環境作りに努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101002		
法人名	社会福祉法人 東北福祉会		
事業所名	せんだんの里 グループホーム(中乃家)		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成26年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの「その人らしさ」を大切に、和やかに安心して過ごしていただけるように支援しています。  
 出来ること(食事の盛り付けや洗濯物干し・たたみ)を活かしたり、家庭菜園を取り入れる等し、その方の持つ力を引き出すケアにも力を入れています。ユニット内のレイアウトや、行事・外出、また食事といった場面で、季節を感じていただける工夫をしています。  
 面会をはじめ、行事を開催したり、2~3月に1度発行する「おたより」で、ご家族へ生活の様子をお伝えする等、連絡を密に取るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国見ヶ丘団地内の一面の広大な敷地に、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス等とともに3棟のグループホームはある。社福)東北福祉会が運営し、「せんだんの里」として事業所間のコミュニティが形成されている。ボランティアの来訪も多く、利用者は他事業所の活動に参加も可能で、他事業所の顔なじみの職員や知人との交流の機会も多い。ひとつのユニットが一軒の家で、各々独自の理念を掲げ、多くの職員(半数以上)が介護福祉士の資格をもち、生き生きと働いている。職員の資質向上のための研修も充実しており、専門性を高めるために介護福祉士取得を積極的に支援している。室内の大きな窓から桜が一幅の絵のように眺められる。現在、ユニットの定員8人から9人にするため増床の工事をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 **せんだんの里 グループホーム**）「ユニット名 **中乃家**」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	せんだんの里の「地域密着」の理念のもと、ユニットでも独自の理念をかかげている。管理者・職員全員で共有し、ユニットの目の付きやすい場所へ掲示する事で、意識して取り組んでいる。	法人の理念をもとにユニット毎に独自の理念を掲げている。職員は利用者の声を聴くように努め、生活スタイル、本人らしさを大切に日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広い施設敷地内のため、地域住民との日常的な関わりは少ない。しかし、地域の祭りや文化祭、ボランティアサークルの行事、ふれあい食事会等にはご利用者と共に参加して、地域とつながりを持つようにしている。	町内会には加入していないが、広大な法人施設敷地内でコミュニティが形成されている。演芸や紙芝居・傾聴の会など多種多様なボランティアの来訪がある。地域の防災訓練に参加をし、地域住民に向けて介護教室を開催して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解や介護食について理解を深めて頂けるように、年に数回介護教室やサロンを実施している。また、介護についての悩み相談等も随時受け入れられる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごとに運営推進会議を開催して、推進委員の方々にグループホームでの取り組みを報告している。また、推進委員の方には施設を見学して頂きながら、意見を伺い、サービスの向上に努めている。	民生委員、地区社協、地域包括職員、家族、職員の参加で2ヶ月に1回開催、外部評価の報告もされている。昨年の評価の課題の段差解消は現在行われている増床のための工事で検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価結果の改善計画書の提出等、必要に応じて担当者と話し合いの場を設けるようにしている。	必要な報告をし、1部屋増床の件については、計画時から相談をしてすすめている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケア委員会を中心に勉強会等を行い、身体拘束をしないケアについての理解を深めている。勉強会後はミーティング等で再度話し合いを持ち、身体拘束について振り返りながら、日々のケアに取り組んでいる。	身体拘束についての委員会があり、毎月1回事例検討を含む研修を実施している。傷があるのに搔いてしまうためミトンが必要になった時には、理由を家族に説明をするとともに毎日の状況を記録に残した。外出傾向を把握し、職員が遠くから見守って敷地内を散歩している。夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束しないケア委員を中心に、全職員へ伝達している。また、内部研修を行い、虐待防止に努めている。上記同様、ミーティングでの話し合いや、定期的な自己点検を行い、職員がお互いに注意を払うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し制度の理解に努めている。必要時には、関係機関と連携し対応が可能である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時及び改定の際には利用者家族に説明会を開催し、理解と納得を得られるようにしている。また、疑問点や不安なことは面会時やプラン提示の際等に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付を玄関に設置すると共に、プラン提示の際等に要望等意見を伺う事で、ケアの見直しを行っている。また、面会時に職員から近況を報告して、家族の意見も伺う事で、家族の発言の機会を提供している。	行事があるときに、家族との食事会を設け、その後に懇談会を開催している。家族からマッサージや口腔ケア等の個別の要望があり対応している。家族あてのお便りは、利用者一人ひとりの写真や手書きのコメントなど各ユニットで工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット職員とのコミュニケーションを図るようにし、職員の意見を現場に活かせるよう勤めている。毎月の運営会議にて職員の意見・提案を聞く機会を設けている。	職員シフトは原則均等にしているが、研修や体調等を考慮して、職員希望も取り入れてシフトを作成している。食事メニュー作りの作業の合理化なども検討をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、職員の取り組みについて評価するほか、直接面談にて意思を確認することで、向上心をもって働けるように職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じ、内部・外部への研修参加の機会を設け、職員全体のスキルアップを目指している。また、資格取得の為にサポート（介護福祉士・ケアマネジャー勉強会の実施等）も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム協議会へ加入し、職員研修会・講演会に参加することで、他事業所の方々との意見交換・交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり、自宅や施設へ訪問させて頂き、本人からも話を聞く機会を作っている。またそれらをケアプランに反映させ、少しでも早く馴染んで頂けるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の想いや不安等を聞き取り、説明の機会を設けながら、安心して入居して頂けるように努めている。また、事前見学をして頂くことで、生活イメージを持って頂けるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントから、本人・家族の意向を把握し、それぞれのプランに沿って支援を行っている。また、入居直後はご本人へのアプローチを増やし、ご家族とは密な情報共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にも食事準備等手伝って頂いている。洗濯物たたみやゴミ捨て等ちょっとした作業でも、職員だけで行わず、入居者に声を掛けながら一緒に行う心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やプラン提示の際等、様子を伝えると共に、家族の意見を求めて、一緒にケアを考える姿勢で対応している。また、病院の付き添いや理美容、墓参り等ご家族の協力を頂ける範囲内で依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や知り合いが面会に来られた時は、ゆっくり話せるように場所を提供している。また、入所後も馴染みのお店を利用する等、家族と相談しながら入所前の関係性を継続出来る様に支援している。	在宅時より参加している踊りのサークルへ通っている人もいる。家族の協力のもと、以前から通っている美容院へ行くこともできている。法人敷地内の他事業所の利用者や職員との交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い方には職員が橋渡しを行うなど必要に応じて仲介している。また、テーブルを囲んで歌やレクリエーションを行ったり、利用者同士が場面を共有を通して、関係性を築けるような支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に足を運んで頂けるような雰囲気作りを意識し、気軽に来訪して頂けるように声を掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりや会話の中から、希望や意向の把握に努め、記録に残している。また、カンファレンスでは本人の意向を共有して、意向に沿ったケアを行えるように検討している。	利用者本人のことばを大切にケアに活かすよう努めている。意向の把握が困難な人は、生活歴を参考にしている。これらの情報は申し送りノートやケアカンファレンス等で職員間の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設独自のアセスメント表を使用しており、入居前に生活歴や過去の生活環境等は確認している。また、必要に応じて入居後もご家族に詳細を確認する事もあり、面会やプラン提示の際にお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録だけでなく、バイタル測定や、体重の経過なども確認しながら現状の把握を行っている。また、主治医・看護師・薬剤師など連携しながら健康面も含めた心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、課題とケアの確認を行っている。また、事前に意向を確認して介護計画を作成している。主治医と看護師からの指示内容も確認して、必要に応じて介護計画に記載している。	介護計画作成にあたり、利用者・家族の意向を確認しており、短期・長期の目標がたてられ、記録されている。食事や介護などについての医師の意見を反映し、職員はカンファレンスで検討している。家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に生活の中での言葉や表情、また職員の対応や気づきを記録している。また、全職員で記録の回覧と申し送りをしている。モニタリングと介護計画の更新では、ケース記録を振り返りケアを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内だけでなく、併設の特別養護老人ホームやデイサービスと連携してサービス提供を行っている。また、地域資源を活用して、本人のニーズを汲み取ったケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域のイベントに参加したり、買い物や行きつけの美容院を利用する等、地域資源を活用して、地域との関わりの機会をつくっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、本人や家族の希望するかかりつけ医へ受診するよう配慮している。職員が受診に同行した場合には、当日中に家族へ受診結果の連絡を行っている。	入居前のかかりつけ医への受診を継続できる。通院は家族対応で外出の機会となっている。月2回の訪問診療を受けている人もいる。紹介状を出してもらって専門医へつなげる場合もある。職員が付き添った場合は家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護師と連携をとり、変化があった時には連絡し、受診等の対応をしている。又、訪問看護師巡回時に、一週間の様子を報告し、情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関が求める情報を書面と口頭で申し送りしている。入院中は職員が面会に伺い、医療機関から情報を得ている。また、退院前に実態調査を行い、医療機関からの指示を確認して退院後も継続的な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における看取り指針を作成し、事業所でできる医療体制等を含め、本人や家族に説明を行っている。また、意向確認と同意を得て看取り支援を行っている。	入居時に看取りの指針についての同意を得ている。重度化や終末期の対応についても丁寧な話し合いが行われている。看取りの際、家族の宿泊部屋があるが、ほとんどが利用者の個室で過ごすことが多い。すべてのユニットで看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時、マニュアルに基づいた対応が出来るよう、定期的に確認をしている。また新人職員を中心に救急訓練等の研修を行い、応急手当や初期対応の知識を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含めた避難訓練は4棟合同で月1回行っている。また、避難経路・災害対策のマニュアルを常に確認できるように掲示を行っている。	グループホームの各ユニットが毎月順番で火災訓練を行っている。防災訓練は法人全体で行われ、非常時用の備蓄は6日分用意されており、毎月確認している。備蓄による非常食メニューができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の身体状況を把握して、その方に合わせた対応や声掛けをし、ケアを行っている。食事や排泄、入浴等全ての生活場面においてプライバシーに配慮したケアを心掛けている。	呼び名は入居の際のフェイスシート作成時に確認し、職員間で共有している。職員研修では接遇について学び、苦情時の対応にも取り組んでいる。排泄介助は周りの人に気づかれないように部屋やトイレに誘導しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや何気ない会話から、本人の要望等把握できるように努めている。また、日常生活の中で本人に声を掛けて、コミュニケーションを取りながら自己決定できる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを意識し、体調や気分も考慮しながら希望に沿った過ごし方ができるように支援している。また、今までの生活習慣や思いを大切に持ち続けられるように居室環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で身だしなみを整える事が難しい方にも、本人にお聞きして洋服を選んだり、整容を行っている。また、美容院へ行く事で、おしゃれの気分を楽しんで頂く機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食事の盛り付け、片付け等、一緒に行っている。また、食事をしながらお話しをして、食への嗜好等を確認している。食事のメニューには季節感や嗜好を取り入れるように意識している。	献立は各ユニットごとに異なり、季節感のある食材を使用して利用者の好みや希望を聞きながら、職員が1週間交代で作成している。利用者も調理や片付けなどを一緒に行っている。法人の栄養士が食事の写真を見ながらチェックし、体重チェックも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのよい食事を提供できるように1年に1回施設の管理栄養士にメニュー表を確認してもらい、栄養バランスについて助言を受けている。水分補給は嗜好や習慣に合わせて、個別に提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて、口腔ケアの声掛けや見守り、仕上げ介助等を行っている。義歯は、夜間外して洗浄を行っている。また、口腔内の汚れや痰がらみ等ある方には、食前の口腔ケアも行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の回数や量、時間等チェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努めている。また、必要に応じて排泄用具は使用しているが、排泄パターンに合わせて出来る限りトイレで排泄が出来るように支援している。	個別排泄チェック表があるが、一人ひとりのサインをつかんでトイレに誘導するようにしている。自然な排便のためには十分な水分摂取とともに運動にも気を付けている。乳製品を食事に取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防や自然排便ができるように、乳製品や野菜を取り入れた食事の提供と水分補給を行っている。また、個々に合わせた排便コントロールを行い、可能な範囲で軽運動等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けしながら、入浴の希望を確認している。介助が必要な方にも、本人の意向を確認しながら、安全に入浴を楽しんで頂けるように支援している。	週2回が原則だが、希望にそった入浴も可能、ゆず湯や入浴剤も利用している。個別のお湯換えはしていないが、上がり湯で対応している。車いすの方には本人の状態に合わせた介助方法でホーム内の個浴や、同法人施設の入浴設備を利用し支援している。拒否が強い方には声がけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠が確保できるように、日中は散歩や運動の機会を設けている。また、一人一人が安心して休める居室環境づくりや季節に合わせた掛け物の調整、温度管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルを作成し、処方箋や薬の効能を確認出来るようにまとめている。また、処方が変わった時には主治医や薬剤師から説明を受け、注意点等把握して、経過観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や習慣に応じて、生活の中に役割を担って頂いている。例えば、調理の盛り付けや洗濯物干し、買い物、ゴミ捨て等一緒に行っている。また、楽しみとして、漢字クイズ、クロスワード、行事参加等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を日頃の生活から汲み取り、ご家族の協力も得ながら、自宅へ行く機会等を設けている。また、外食・観光、地域イベントへ出かけて、楽しみをもてるように支援している。	ゴミ捨てや散歩など外に出るときには、目的をもって出かけるようにしている。七夕は近くの中山商店街に出かける。墓参りは家族の協力を得ながら行っている。地域のイベントやユニット合同のイベント、法人内のおやつづくりやクイズ大会などを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてお金を自己管理して買い物ができるように支援している。ご自分で支払いが出来る方は、普段から自分でお金を管理してもらい、自動販売機の利用や買い物でお金を使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎを行っており、話しがしやすいようにお部屋でお話をして頂く事もある。また、手紙はレターケース等を用意して、常に楽しめるようにしている。ご自身で字を読めない方には読んで手紙をお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕の時期には笹の葉に短冊を吊す等、季節感を取り入れながら環境作りを行っている。また、草花を好きな方も多いため、職員だけでなく家族にも協力を頂き、毎週新しい生花を飾っている。温度と湿度の確認を毎日行っており、室温等配慮している。	リビングルームの窓からは、桜並木が良く見え、室内にいながら季節を感じられる。温・湿度は当日のスタッフが管理している。室内は大小様々な観葉植物が配置されて緑が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体状況やそれぞれの相性も考慮しながら、座席等の配置を行っている。また、食事のテーブルと普段過ごされる場所を分けたり、ゆったり過ごせるソファを配置する等居場所づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い安心できる居室環境を提供できるように、入居の際には馴染みの家具や生活用品等を出来る限り多くお持ち頂くように依頼している。また、状況に応じて必要な家具を整えている。	洗面台、押し入れ、エアコンが設置されており、テレビや使い慣れた家具等を持ち込んで落ち着いて過ごせる部屋になっている。居室から外に出られるような大きなガラス戸になっているため、開放感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普段の関わりの中からも一人一人の能力を把握して、出来るだけ介助し過ぎないように、安全な環境作りを心がけることで、自立支援に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101002		
法人名	社会福祉法人東北福祉会		
事業所名	せんだんの里グループホーム(西乃家)		
所在地	仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成26年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【つながり】</p> <p>○一人ひとりの思いを大切に、共有し、共感できる関係を作ります。</p> <p>○互いを思いやる気持ちを忘れず、安心してめくもりを感じて頂けるよう支援します。</p> <p>○地域との連携を図り、誰が来ても安心して、ほっとできる環境を目指します。</p> <p>・上記をユニットの理念に掲げ、温かさを感じられる関わりができるよう取り組んでいます。利用者様の「出来ること」に合わせて、洗濯物たたみや、食器拭き等を職員と一緒にこなしています。それぞれに個性豊かな利用者様方で、笑顔が多く穏やかなユニットです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国見ヶ丘団地内の一画の広大な敷地に、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス等とともに3棟のグループホームはある。社福)東北福祉会が運営し、「せんだんの里」として事業所間のコミュニティが形成されている。ボランティアの来訪も多く、利用者は他事業所の活動に参加も可能で、他事業所の顔なじみの職員や知人との交流の機会も多い。ひとつのユニットが一軒の家で、各々独自の理念を掲げ、多くの職員(半数以上)が介護福祉士の資格をもち、生き生きと働いている。職員の資質向上のための研修も充実しており、専門性を高めるために介護福祉士取得を積極的に支援している。室内の大きな窓から桜が一幅の絵のように眺められる。現在、ユニットの定員8人から9人にするため増床の工事をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果（事業所名 **せんだんの里 グループホーム**）「ユニット名 **西乃家**」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに、ユニット毎の独自の理念を作成している。理念をもとにケアを実践するにあたり職員間で共有し、確認を行なっている。	法人の理念をもとにユニット毎に独自の理念を掲げている。職員は利用者の声を聴くように努め、生活スタイル、本人らしさを大切に日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件により日常的な交流は少ないが、ボランティアの定期的な来訪はある。地域行事への参加を通じて交流に努めている。	町内会には加入していないが、広大な法人施設敷地内でコミュニティが形成されている。演芸や紙芝居・傾聴の会など多種多様なボランティアの来訪がある。地域の防災訓練に参加をし、地域住民に向けて介護教室を開催して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解や介護食等について理解を深めて頂けるよう、年に数回介護教室を開催している。又、介護についての悩み相談等、随時受け入れる体制をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度定期的に開催し、運営や取り組みについて報告し、評価する場を設けている。委員から助言を頂き、運営に活かしている。	民生委員、地区社協、地域包括職員、家族、職員の参加で2ヶ月に1回開催、外部評価の報告もされている。昨年の評価の課題の段差解消は現在行われている増床のための工事で検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の行事、研修等に参加し、事業所のケアサービスの取り組みを積極的に市担当者を確認し、内容の伝達を行い、連携の機会を作っている。	必要な報告をし、1部屋増床の件については、計画時から相談をすすめている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケア委員会による勉強会を通し、全職員が身体拘束の弊害を理解し、ケアに取り組んでいる。日中は、玄関の施錠をせずに自由に入出入り出来るようにしている。外出傾向を把握、情報共有し、見守り対応している。	身体拘束についての委員会があり、毎月1回事例検討を含む研修を実施している。傷があるのに搔いてしまうためミトンが必要になった時には、理由を家族に説明するとともに毎日の状況を記録に残した。外出傾向を把握し、職員が遠くから見守って敷地内を散歩している。夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束しないケア委員会による勉強会を通し、虐待防止について学習している。不適切ケアについて、ユニット会議で話し合う機会を持ち、普段のケアを振り返り、意識の向上に努めていると共に、定期的に自己点検を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会へ参加し、成年後見人制度等について学習している。必要性が生じた場合には、制度を活用できるような体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約については、十分に説明をし、利用者や家族の不安解消に努めている。改定の際には文書配布、説明を行なっている。ホーム玄関に重要事項説明書を常時掲示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族参加型の行事を実施し、意見交換の機会を設けている。玄関先に「意見投書箱」を設置している。又、苦情受け入れ窓口についての情報を、常時掲示している。	行事があるときに、家族との食事会を設け、その後に懇談会を開催している。家族からマッサージや口腔ケア等の個別の要望があり対応している。家族あてのお便りは、利用者一人ひとりの写真や手書きのコメントなど各ユニットで工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や面談を通して、職員の意見を聞く機会を設けている。日常的に職員とのコミュニケーションを図り、現場に反映させるよう努めている。	職員シフトは原則均等にしているが、研修や体調等を考慮して、職員希望も取り入れてシフトを作成している。食事メニュー作りの作業の合理化なども検討をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成22年度からのキャリアパス制度導入により、個々の目標を把握し、面談を通じて達成状況や不安等確認することで、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じた、内外部への研修の機会を設けている。又、資格取得の為のサポートも行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム協議会に加入し、職員研修会、講演会等に参加し、他事業所の方々と意見交換・交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった段階で職員が訪問し、困っていることや不安なことを聞き取る機会を作っている。見学に来て頂く等、安心して入居して頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、不安や要望を事前に聞き取る機会を作っている。気軽に相談して頂けるよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問にて聞き取った、本人・家族の意向をもとにニーズを抽出し、柔軟に対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の都合で物事を決めるのではなく、利用者と共に考えながら支援している。又、日々の関わりを通じて人生の先輩として敬い、暮らしの知恵を学びながら関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や、家族参加型の行事の実施を通じて、家族との連携をとりながら、共に支援していく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所に出かける機会を設けている。ホームで生活していても、関係を継続できるよう、必要に応じて家族と連携を図りながら、積極的に支援している。	在宅時より参加している踊りのサークルへ通っている人もいる。家族の協力のもと、以前から通っている美容院へ行くこともできている。法人敷地内の他事業所の利用者や職員との交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が馴染みの関係となるよう、橋渡しを行い、関係性を考慮しながら、利用者同士が支えあえる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、気軽に訪問して頂けるように積極的に声を掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴や過去の環境を把握し(アセスメント)、日常生活の中での会話に耳を傾け、一人ひとりの思いや希望を汲み取るようにしている。把握した内容は職員間で共有し、毎月の会議の中で実現に向けて検討している。	利用者本人のことばを大切にケアに活かすよう努めている。意向の把握が困難な人は、生活歴を参考にしている。これらの情報は申し送りノートやケアカンファレンス等で職員間の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴やサービス計画書等の資料を、いつでも職員が見ることが出来る場所に保管している。本人や家族との会話から、これまでの暮らしを汲み取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌・ケース記録・申し送りで利用者一人ひとりの記録を行い、毎日の生活や心身の状態や変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、利用者・家族の意向を確認している。3ヶ月毎に介護計画を作成し、利用者の状況に変化が生じた場合には、随時ケア会議を開催し、状況に応じたケアが随時提供できるように各専門職員と連携し、介護計画書に活かしている。	介護計画作成にあたり、利用者・家族の意向を確認しており、短期・長期の目標がたてられ、記録されている。食事や介護などについての医師の意見を反映し、職員はカンファレンスで検討している。家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者毎に日々の生活の記録を行い、気づきや変化を確認することで、職員間で情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内だけにとらわれず、併設している施設の機能を活用したり、地域資源を活用することで、より良い生活が送れるよう、本人のニーズを汲み取った柔軟な支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体が主催する会に出席、ボランティアの受け入れ、せんだんの里内の行事に参加する等、地域資源を活用しながら、本人の能力を発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう、配慮している。職員が受診に同行した場合には、その日のうちに家族に報告するようにしている。	入居前のかかりつけ医への受診を継続できる。通院は家族対応で外出の機会となっている。月2回の訪問診療を受けている人もいる。紹介状を出してもらって専門医へつなげる場合もある。職員が付き添った場合は家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護師と連携している。週1回の巡回時や日常の中での体調変化など、その都度、訪問看護師に報告・相談し、適切な看護を受けられるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中より面会等で心身の状況把握に努めている。医療機関とも、医療情報を「サマリー」等で共有、情報交換をこまめに行い、退院後も安心して生活できるよう支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における「看取り指針」を作成し、本人・家族から重度化した場合の意向確認と同意を得るようにしている。ホームでは医療との協力体制等を含め、方針を共有・確認しながら対応している。	入居時に看取りの指針についての同意を得ている。重度化や終末期の対応についても丁寧な話し合いが行われている。看取りの際、家族の宿泊部屋があるが、ほとんどが利用者の個室で過ごすことが多い。すべてのユニットで看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、それに基づき対応できるよう、定期的に確認している。毎年、救命救急講習を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各グループホームで毎月避難訓練を実施し、全職員が避難方法を訓練している。避難経路や災害対策マニュアルを掲示し、常に確認できるようにしている。また、地域の防災訓練や防災会議へ参加し連携を図っている。	グループホームの各ユニットが毎月順番で火災訓練を行っている。防災訓練は法人全体で行われ、非常時用の備蓄は6日分用意されており、毎月確認している。備蓄による非常食メニューができています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、一人ひとりに合った声掛けやケアを行なっている。生活するうえで、プライバシーを損ねないよう配慮している。	呼び名は入居の際のフェイスシート作成時に確認し、職員間で共有している。職員研修では接遇について学び、苦情時の対応にも取り組んでいる。排泄介助は周りの人に気づかれないように部屋やトイレに誘導しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々で本人に確認しながら、希望や思いに沿ったケアをするように努めている。意思決定が難しい方に対しても、本人の思いを汲み取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、体調に合わせてその日の生活を習慣や思いを優先して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回程度、訪問理容を依頼している。季節に合ったおしゃれができるよう、本人に確認しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるよう、食事作りへの参加や後片付け等を一緒に行なっている。又、本人の嗜好や嚥下状態に合わせた食事を提供している。季節感のある献立の作成、提供に努めている。	献立は各ユニットごとに異なり、季節感のある食材を使用して利用者の好みや希望を聞きながら、職員が1週間交代で作成している。利用者も調理や片付けなどを一緒に行っている。法人の栄養士が食事の写真を見ながらチェックし、体重チェックも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、献立を作成している。チェック表を活用し、1日の水分・食事量の確認を行い、不足している場合には、本人の好みのもや栄養補助食品を提供する等、一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの残存能力に応じて、声掛けや介助にて口腔ケアを行なっている。義歯の方は、夜間回収し、洗浄を行い清潔保持に努めている。うがい難しい方には、吸引歯ブラシを使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄チェックを行い、排泄パターンを把握している。本人の排泄パターンに合わせたトイレ誘導・声掛けを行なっている。	個別排泄チェック表があるが、一人ひとりのサインをつかんでトイレに誘導するようにしている。自然な排便のためには十分な水分摂取とともに運動にも気を付けている。乳製品を食事に取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事委員会を中心に栄養士から献立のアドバイスを頂き、食物繊維を取り入れた食事の提供を意識している。又、便秘予防のため、個々に合わせた排便コントロールを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴者の希望に合わせて、入浴できるようにしている。介助が必要な方には本人の意思を確認しながら入浴して頂き、入浴を拒む方には、タイミングを見計らい声掛けを工夫するなどして、一人ひとりに合わせた対応をしている。	週2回が原則だが、希望にそった入浴も可能、ゆず湯や入浴剤も利用している。個別のお湯換えはしていないが、上がり湯で対応している。車いすの方には本人の状態に合わせた介助方法でホーム内の個浴や、同法人施設の入浴設備を利用し支援している。拒否が強い方には声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良い睡眠が確保できるように、日中の生活の中で散歩や生活リハビリを取り入れるようにしている。又、眠気が強い様子が見られた際には、居室で休んで頂くなど、その時々に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬が、一目で確認出来るようにファイルを作成している。又、薬の副作用、用法は処方された都度、職員で情報を共有し、症状に変化がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の力を活かした役割として、調理の補助や盛り付け、後片付け、洗濯物たたみ等を一緒に行なっている。又、嗜好品を買う楽しみ、食べる楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、ドライブ、外食等、入居者が希望する場所への外出を支援している。家族の協力を得ながら、地域のイベントへ参加している。	ゴミ捨てや散歩など外に出るときには、目的をもって出かけるようにしている。七夕は近くの中山商店街に出かける。墓参りは家族の協力を得ながら行っている。地域のイベントやユニット合同のイベント、法人内のおやつづくりやクイズ大会などを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時には、職員と一緒に財布を取りに行き、自由に買い物が出来るよう支援している。一人ひとりの希望や力に応じて、家族と連携を図りながら、柔軟に対応出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に手紙や電話が出来るよう対応している。家族にも、協力を仰ぎながら、やりとりが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護力向上委員会を中心に、季節感を取り入れた環境作りを行なっている。照明やテレビの音量、温度にも配慮し、居心地良く過ごせるよう、配慮している。	リビングルームの窓からは、桜並木が良く見え、室内にいながら季節を感じられる。温・湿度は当日のスタッフが管理している。室内は大小様々な観葉植物が配置されて緑が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、テーブル、ソファースペースを作り、その時の希望に沿って居場所を選択できるようにしている。思い思いに過ごせるよう、家具の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら、馴染みの家具や好みに合わせた物を使用している。家族の写真やラジオ等を持ち込み、本人が居心地良く、安心して過ごせるよう工夫している。	洗面台、押し入れ、エアコンが設置されており、テレビや使い慣れた家具等を持ち込んで落ち着いて過ごせる部屋になっている。居室から外に出られるような大きなガラス戸になっているため、開放感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、それを活かせるように、安全に配慮した環境作りを行なっている。動線に配慮したり、危険のある物は直接手の触れない場所に保管するようにしている。		